

マキバノハナゾノ通信

2014年5月25日

発行：〒960-1811 福島県相馬郡飯館村小宮字萱刈庭535・大久保金一農園 編集協力：ふくしま再生の会

創刊号



【写真説明】左から
 ●案内看板除幕式 左：飯塚さん夫妻 右：金一さん 2014/4/13
 ●丘の中腹へと広がる水仙の絨毯 同年4/20
 ●植樹を手伝う金一さん（中央） 同年4/13
 ●植樹会を見守る金一さん 同年4/20
 （撮影はふくしま再生の会・会員による）

2014 4/13 4/20 両日 大久保金一農園

桜の植樹会に100名超が参加

被災者の方々と私は絶望を共有することはできないけれど希望を共有することはできる。そういうことをいろいろな人に教えてもらったと思うーマキバノハナゾノ植樹会参加学生（東大大学院農学生命科学研究科・溝口勝研究室）

2014年4月13日・20日の両日、福島県相馬郡飯館村小宮地区の大久保金一農園で桜の植樹会が行われた。この会は大久保金一農園

が主催し、NPO法人ふくしま再生の会（理事長：田尾陽一）が協力して実現した。植樹会では計100名超の人びとが来村して100本以上の桜の苗木を植樹した。「マキバノハナゾノ」はこの日のために金一さんが農園とそれを取りまく山と川の全体を総称して名付けた。「マキバ」は土地の元々の地名に由来する。



い」と決意を述べた。菅野宗夫さん（飯館村農業委員会・会長、ふくしま再生の会理事）は「金一さんが担う世界」の大きさについて皆に語った。特筆すべきは、東大・明大・茨城大・宇都宮大・弘前大の次代を担う多数の若いみなさんの参加を得たことである。その中には金一さんとしっかり握手する飯館村の青年の姿があった（左の写真）。こうして「希望の共有」を実感できた二日間だった。【文責：再生の会・若林一平】

4月13日、金一さんが30年来交流してきた飯塚直さん・麻子さんご夫妻が代表をつとめる「震災復興記念の和・しゅみの友」の植樹になる24本の桜の案内看板の除幕式が行われた。予定の桜の植樹を終えた後、金一さんは「5年後10年後にほんとうの花園になるよう心がけた

桜の植樹説明チラシ



- 大久保金一マキバノハナゾノ略年譜
- 1940 金一さん誕生
 - 1950 小5～小6、クリンソウ・ヤマユリ・ヤマシャクヤクとの出会い、ハナゾノづくり始まる
 - 1954 中3、草花の群生地づくりに成功
 - 1982 飯塚さんを訪問、交流始まる
 - 1994 花博に参加、知見を拡大する
 - 2011 311福島第一原発事故で被災、避難生活へ、飯塚さんが避難先・仮設住宅を訪問し交流再開
 - 2013 ふくしま再生の会との協働始まる
 - 2014 桜の植樹会行われる
 - 2017 マキバノハナゾノ第1回桜まつり開催予定



歓迎します・マキバノハナゾノへ！
 ハナゾノ見学・草花の株分け・草花観察会・等を計画しています。関心をもたれた方はお名前・

住所・電話番号・FAX番号等をおしえてください。あるいはお名刺をいただいてもけっこうです。お問い合わせは大久保金一農園まで。
 メール：makibanohanazono@yahoo.co.jp

